

# 古今東西 くんくん 行きます!



郡市長がさまざまな現場を訪らし  
市民の皆さまの活動の様子な  
どをお伝えします

日本で初めて女子大学生が誕生した東北大学で、次世代の女性研究者を育成するための活動を行っている「東北大学サイエンス・アンバサダー」の皆さんにお話を伺いました。

## 科学の魅力を楽しく伝える

「東北大学サイエンス・アンバサダー（以下、SA）」は、小中高生向けのセミナーやイベントなどを通して、科学の面白さを伝えるさまざまな活動に取り組んでいます。平成18年に東北大学に所属する理系女子大学院生によって「東北大学サイエンス・エンジェル」と

して発足し、昨年度から名称を変更。現在は文系の学生や性自認（心の性）が女性の学生など多様な方が参加しています。

医学系研究科の山田綾さんは「中高生を対象にした出張セミナーやオープンキ

▲摩擦の仕組みについて、材質の異なるこまを使い、実演を交えて説明していただきました

ャンパスでは、大学生活や研究内容について説明したり、進路などの悩み相談に乗ったりしています。また、小学生に向けては科学実験教室を開催し、作業をしながら摩擦の仕組みを説明するなど、楽しみながら科学に触れる機会を作っています」と教えてくれました。医学系研究科の二階堂舞香さんは、テレビ番組にも出演。「味を感じる仕組みについて生物学的な観点から説明したときは『普段と違う視点で見ること新たな発見があった』と好評の声をいただき、やりがいを感じました」と、活動の手応えを得ているそう。身近な事柄を入り口にすることで、科学や理科を親しみやすく、楽しいものと捉えてもらおう工夫をしているのですね。

## 女性研究者のロールモデルに

内閣府によると、日本の大学入学者における女性比率は工学分野で15・2%、理学分野で30・2%（令和3年度）。農学研究科の松本夏歩さんは「進路選択の際、本当は理系に興味があるのに周りに理系を選ぶ友人が少ないことのためらう女性もいるように思います。そのような悩みを持つ中高生に、ロールモデルとしてこういう女性研究者がいるということ伝えていけたら」と、活動の意義について話してくれました。

「表面的に理系女性の人数だけを増やすのではなく、女性がその道に進みたいと思ったときに迷わず進めるような環境になっていけば、進路を選択し

やすく、キャリアも積みやすくなるのでは」と期待を込めるのは、工学研究科の田中律羽さん。SAの活動は、中高生が理系分野に自然と興味関心を持つきっかけを作り、さらに身近な目標となることで、次世代の女性研究者育成のために重要な役割を果たしていると実感したところだ。

今後、東北大学女子学生入学110周年記念行事やオープンキャンパスなどが続きます。上海からの留学生で経済学研究科のマオ・ウエイさんは、「こうした機会を通して女性科学者の業績や成功体験を紹介し、より多くの女子学生や一般の方に科学に興味を持つてもらえるよう頑張りたいです」と、力強く意気込みを語ってくれました。

## すべての人が活躍する社会に

自身の研究に加えてSAの活動を精力的に行っている皆さん。活動の様子や今後の展望を生き生きと話す姿が印象的で、皆さんの存在を頼もしく、心強く感じました。これからも仙台の小中高生に科学の楽しさを伝え、ご自身もますます活躍してもらいたいと思います。市としても、性別に関わらず、す

べての人が活躍し続けられる社会づくりを推進してまいります。



▲上段左から松本さん、マオさん、田中さん。下段左から山田さん、市長、二階堂さん

